

# 甲斐ゼミ 高校部通信

■「君の夢は何ですか？」の問いに何と答えますか。もし明確な将来への夢を持っているならば、それは学習への大きなモチベーションとなっているでしょう。夢の実現の前では、英単語の暗記も難解な二次関数の克服も大きな問題にはならないはずです。しかし、実際は多くの高校生が明確な未来へのビジョンを持たず、将来への不安を抱えながら「大学くらい行っておかなければ」「受験のために勉強をしなければ」と漠然と考えているのが現状ではないでしょうか。個別面談で将来の夢を生徒に尋ねても「特にない」「今はない」という答えがほとんどです。

## 1 大学は夢を見つける準備期間



■「夢がない」と答える生徒は、勉強も親や先生からやらされている感じがあり、志望大学も漠然としていて、現状の学力ではどうにもならないどこかで聞いた大学名を言ってきます。こういう生徒は「大学とは何をするとところなのか」からもう一度考え直してほしいです。もちろん「勉強をするとところ」であるのは間違いありません。実際に医学部と理系学部では、学生は授業を休まずに出席し、レポートの提出に追われる日々が続きます。しかし、一般的に言うと、大学とは高校卒業後、**社会に出るまでの準備期間として高等教育を施す場所**なのです。また、その準備期間には、学問以外の経験やさまざまなタイプの人間と交流して**人間の幅を広げる期間**という意味も含まれていると言えるでしょう。大学では教養科目の種類が豊富で、自分の専門だけでなく幅広い分野の授業が受講できます。最先端の研究に触れられるのはもちろん、総合大学なら様々な専門分野の知識や様々な価値観を持った仲間との交流があります。その仲間は日本全国からだけでなく海外出身者もいます。サークル、部活動での出会いも自分の見識を広げる大きな刺激となります。アルバイトもまた大学生活の中で経験できる貴重な勉強の一つで、社会の一員として働き、上司、仲間との付き合い方、そしてお金を稼ぐことの大変さを学ぶことができます。



■ また、多くの学生が親元を離れて大学生活を送ることになります。今までは親の判断に従って決断をしてきましたが、一人暮らしを始めると、自分で物事を決めていくことも多くなります。社会人ではありませんが、責任を持った行動も必要になります。

■ 大学生活の様々な経験を通して、人間としての幅が広がり、多くの仲間との交流を経て、必然的に社会とは何か、また自分はその中で何ができ、何をすべきかが見えてきます。自分に何ができるのか、何をすべきか。それが自分で見つけた本当の夢なのです。ですから、高校生活の中で夢がなくてもまったく気にする必要はなく、夢を持ち輝いている友人に劣等感を感じる必要もありません。

## 2 大学進学は将来の選択肢を広げる

■ では、次に「夢が見つかった。大学卒業後はこんな職業に就き、生業としていきたい」としたとき、果たしてその夢が叶えられる場所や環境にいるかどうかの問題になってきます。実際、日本は学歴社会で、大学は偏差値で区切られ、有名難関大学の卒業者が就職に有利な現状があります。この学歴社会を批判するのは簡単ですが、裏を返せばそれは学力の高い者には多くのチャンス、夢(職業)の選択権が与えられているとも言えます。学力をつけていけば道は一つだけではなく、たくさん開けていきます。こう考えると日々の学習にもやる気が出てくると思います。その



選択肢を広げるために、今の高校生活では一つでも二つでも上のランクの大学を目指し勉強することが大切なのです。



■ また、大学選択時に学部が大きな要因となっていると思いますが、ほとんどの大学が**転学部**(同じ大学内で他の学部に移ること)を認めています。転学部の制度は大学により異なりますが、もし入学後の社会事情の変化や自分の勉強したいことに変更が出た場合は、学部を変えることができます。よって、学部選択は入学後に考えることも可能です。(だからといって合格点の低い学部を狙い、入学後に高い学部へ移動することは難しいので注意してください。入試の点数を基準にし、転学部を認めない大学もあります。)

# 3 大学入試を知る

センター試験を利用した**一般入試**、高校在学時の成績が重視される**推薦入試**、そして生徒の可能性に比重をおく**AO入試**の増加など、大学入試はますます多様化しています。今では、私立大学の入学者の半数以上が推薦とAO入試で合格している状況です。自分の進路を実現するためには、どのようなルートを通るべきか。その第一歩となる入試の仕組みについて知識を深めることはとても大切です。



## ■ 一般入試【国公立大学】

試験本番の得点のみで合否が決定します。全国のライバルと学力で勝負する一次試験（センター試験）と二次試験（大学独自の個別試験）の合計点で合否が決まり、合算方法は各大学で異なります。センター試験終了後、自己採点結果をもとに受験大学へ出願をします。

### ■ 一次試験（センター試験）

文系・理系で異なるが5(6)教科7科目を課す大学がほとんど。マーク式。

### ■ 二次試験（大学独自の個別試験）

前期日程と後期日程(一部の公立大では中期日程を実施)に分けて募集するが、前期日程の募集人員が圧倒的に多いため、後期は高倍率となる。また、最近では後期日程を廃止する大学も増えている。よって一部の例外を除き、第一志望を前期で受けるのが原則。また、前期試験に合格し、期日までに入学手続きを完了すると中期・後期試験の受験資格は無くなるので、国公立大学のダブル合格はできない。前期は記述式の学科試験が中心。1～3教科を課すところが多い。後期は総合問題、小論文、面接などを課す大学が多い。

## ■ 一般入試【私立大学】

- ① **一般入試** … 3教科型が中心。学力試験による募集枠のおよそ9割を占める。  
理系 … 英語、数学、理科のパターンが多い。  
文系 … 英語と国語が必須で、地歴、公民、数学から1教科選択。
- ② **センター試験利用方式**

センター試験の成績を利用する方式。私立大のほぼ9割が実施しています。センター試験の結果のみで合否を判定する方式が主流ですが、センター試験と大学独自の試験の結果を組み合わせで判定する方式もあります。

### ③ 全学部統一入試

全学部・学科が共通の問題を使用して、同じ日に一齐に試験を行う方式。一般入試とは別日程で実施されるため、同じ学部・学科を2度受験することが可能。複数の学部にも併願可能な大学もあるが、併願するごとに受験料が発生します。

## ■ 推薦入試

学校長の推薦、大学側からの出願資格などの条件をクリアし、調査書、志望理由書、面接、小論文などで可否を判定。面接の中で学力を問う大学が増えているので、一般入試同様、学力をつける必要があります。国公立大の推薦入試では約6割がセンター試験を課しています。以下が主な推薦入試の種類です。

公募制一般推薦	大学ごとの基準を満たし、高校からの推薦状が必要。評定平均値が基準となることが多い。
指定校推薦	大学が高校を指定して実施。学業や部活の成績などをもとにまず高校側で内部選考が行われる。この校内選考に通ればほぼ合格とされるが、一部の大学では不合格者を出すこともある。
公募制特別推薦	スポーツや文化活動などの実績が評価の対象となる。
地域枠推薦	過疎地の医師不足や教員不足対策として実施される。

評定平均値は各教科の5段階評定を合計し平均したもので、1・2年の学年末および3年1学期(または前期)までの成績が対象となります。評定平均値をA～Eの5段階にランク付けしたものが学習成績概評となります。推薦入試を希望する際は評定平均値、学習成績概評が高い方が選択の幅が広がります。

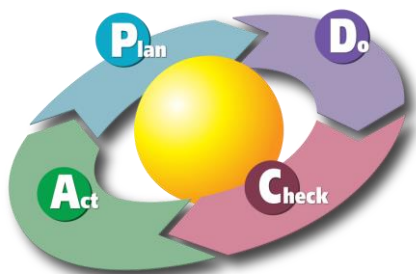
成績概評	評定平均値	出願基準の目安
A	4.3 ～	国公立大の多くや難関私立大の一部 (例) 山梨大学医学部医学科(地域枠)
B	3.5 ～ 4.2	私立大の多く(特に指定校推薦)で一般的な条件 日本学生支援機構の第1種奨学金の成績基準
C	2.7 ～ 3.4	短期大・専門学校が多く(あまり学力を重視しない分野に限る)、2点台では厳しく、3.0以上が普通
D	1.9 ～ 2.6	推薦入試の出願はほとんど不可 AO入試なら可のこともある
E	～ 1.8	進級・卒業すら困難

## ■ AO入試

AO(エーオー、アドミッションズオフィス)入試とは、大学が求める人物像(アドミッションポリシー)に合致するかを、志望理由書や面接などで判定するもの。推薦入試と異なる点は学校長の推薦状や評定平均値の基準が不要というところです。試験内容は志望理由書や小論文のほか、面接やグループディスカッション、口頭試問などです。論文、レポート課題などを事前に提出させる場合もあり、選考方法・回数は大学によりさまざまです。

# 4 PDCA サイクルを確立させる

頑張っているのだけれど、結果に結びつかない人におすすめの学習法をお教えします。PDCAサイクルというのを聞いたことがあるでしょうか。PDCAの4つを循環させて自分自身の目標達成を果たすための考え方です。学習計画を立てて、勉強し、その成果を確認して、うまくいかなかった部分を反省し、次の計画作成に活かしていくことです。このサイクルが身につくと、勉強だけではなくその先の仕事でも役に立ちます。自分の現在地を冷静に分析できるようになります。



- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| <b>P</b> | : Plan   | 計画       |
| <b>D</b> | : Do     | 行動・実行    |
| <b>C</b> | : Check  | 確認し分析・反省 |
| <b>A</b> | : Action | 再度行動     |

でも、計画を作った時点で満足してしまう。そんな経験をした人は数多くいると思います。計画を作る時点でさまざまな工夫が必要になってきます。その工夫をいくつか紹介します。

## ■ 自分に正直になること

計画を作成する前にまずは心の準備が必要になります。その心の準備とは自分にウソをつかないことです。何ができて、何ができないかを冷静に見つめて、自分の現在地を確認することです。自分で分析するのはなかなか難しいものです。先生などに相談するのも一つの方法です。

そこで良く聞くのは「全部できていない」という言葉です。本当にそうでしょうか。できない度合いがあるはずです。優先順位を決めて取り組みましょう。



## ■ まずは一週間単位から

例えば夏休み等の長期の計画を立てられそうな時は、まずは全体像を作り出してから、次は一週間、一日と細かくしていくのが王道です。しかし、長期の計画が立てられないという声を聞くことがあります。そういう人はまず一週間の計画を立ててみましょう。一週間ならある程度の予定も分かりますし、ゴールも見えやすいです。一週間の道筋が見えた後に、一日ずつの計画を作っていくとスムーズに立てられます。

## ■ 余裕のあるスケジュール作成

計画を作成するときに、きっちり詰めてスケジュールを組む人がいます。計画通りになかなかいかず、つい投げやりになってしまい、やる気が落ちる、イライラする…。負の連鎖に陥ってしまいます。そこで、一週間の中で、予備日を入れておくのはどうでしょうか。計画にゆとりができますし、計画を実現できる可能性が大きくなります。例えば、月曜日から土曜日は普通に計画を作り、日曜日の午前中は普通に勉強して、午後は予備日のスケジュールに充ててみましょう。もし、計画通りにいってれば、日曜日の午後はさらに有意義に使えます。

## ■ 勉強内容に具体性を持たせる

- **教科**： 思いつきでやるのではなく、しっかりと教科を決める。決めないとつい得意な教科に偏る傾向が出てきます。
- **教材**： 何を使って勉強するかを明確にする。多くの問題集に手を出すのではなく、一つのを繰り返しやる方が効果的。
- **範囲**： 何ページから何ページまでという範囲の指定。ゴールをはっきりとさせる。

これを読み終わった瞬間から学習は始まります。明日からやろうと考えてはいけません。今動かなければ、何も変わりません。しかし、今動き始めれば何かが開かれるかもしれません。考えるよりもまず行動しましょう。後になって、追い込みをかけるのではなく、先手、先手で動くことが重要です。先延ばしの理由は自分の気持ちの弱さから来るものです。動かない日が続けば、それだけ目標達成も遠のいてしまいます。後悔しないためにも、今すぐに動き出しましょう。



# 5 10年後を見据えた悔いの無い大学選択

■ 大学選択は10年後の自分を定める大切な決断です。そして、10年で日本も世界も大きく変化します。大学入試で言えば、2008年秋のリーマンショック後は企業の採用が急速に低迷しましたが、理系学部の就職はそんな中でも堅調でした。しかし、その後景気が好転し、2014年頃から文系卒業生の就職率も上昇し、2015年入試から文系人気が復活し、今や「文高理低」という状況にあります。結果、文系人気＝私立大人気となっています。

■ 現在のAI(人工知能)の急激な進歩も10年後の世界を大きく変化させるでしょう。例えば2015年12月、野村総合研究所がオックスフォード大学と行った共同研究によると、「国内601種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算した結果、10～20年後に日本の労働人口の約49%が就いている職業において、それらに代替することが可能との推計結果が得られた」というのです。今まで普通にあった職業が、近い将来AIに取って替わられるというのです。自動車の自動運転が実用化されれば、タクシーの運転手はもうありません。レジ係やホテルの受付などすでに実用化されているものもあります。高度な医療の分野にも浸透しつつあります。人間のように疲れることもなければ、気が散ることもないAIは、黙々と正確に何千万件以上の医学論文や薬剤情報を学習し、人間の医師が治療するのに苦勞していた患者に対して正しい診療をたった10分で下すのです。10年後、AIの発達でより快適な生活を手にする反面、夢見た職業はすでになく、多くはAIに取って替わられているかもしれません。社会や経済の状況はこのように刻々と変化し、10年後はまったく異なる世界が待っているかもしれません。

■ 世界のグローバル化は今も進んでいます。技術革新・規制緩和によって「人・モノ・カネ・情報」が国境を越えて行き交い、グローバル化は今後も世界経済の成長を加速させるでしょう。しかし、インターネットの発達など便利で明るい未来を約束すると思われたグローバル化は、現在、産業の空洞化、雇用の喪失、文化の衝突、そして貧富の差の拡大など様々な問題も生み出してきています。例えば、文化や政治面での対立を解決するためにEUは共通通貨を導入して経済的統合を推し進め、各種の行動から共通の価値



値観を確認し、異なる考えを克服しようとしてきましたが、イギリスの離脱により亀裂が生じ始めています。

■ このような世界で生きるみなさんは、英語が話せ、多くの知識を生かして国際的な競争ができるだけでなく、様々な経験を生かして相手の考えを受け入れられる精神も必要になってきます。グローバル化された世界の中で生き残るには自らの力を高め、自らの市場価値を高めていかなければならないのです。ですから、人生の中でその基盤を形成する期間である大学時代はとても重要で、安易な選択であってはならないのです。

■ 例えば、左の資料はイギリスのタイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)による2017年日本の大学ランキングです。THEが毎年発表している世界大学ランキングは、数多くの大学ランキングの中で「最も権威がある」と謳われています。これは「偏差値ランキング」ではなく、下記の「④分野 11項目」の評価基準の合計スコアによって、大学の格付けが行われています。みなさんのご存知の大学名が並んでいると思います。おそらく保護者のみなさんも「なんだ、昔と変わらないな」と感じると思います。10年前に認められていた大学は、現在も国内だけでなく、国際的にも認められているということがわかると思います。大学選択の一つの目安として参考にしてみてください。

THE 大学ランキング  
日本版 TOP20(2017年)

順位	大学
1	東京大学
2	東北大学
3	京都大学
4	名古屋大学
4	東京工業大学
6	大阪大学
7	九州大学
8	北海道大学
9	筑波大学
10	早稲田大学
11	慶應義塾大学
12	広島大学
13	神戸大学
14	一橋大学
15	国際基督教大学
16	千葉大学
17	長岡技術大学
18	上智大学
19	金沢大学
20	国際教養大学

- ① 教育リソース (Resources)
  - 学生1人あたりの資金
  - 学生1人あたりの教員数
  - 教員1人あたりの論文数・被引用回数
  - 大学合格者の学力
  - 教員1人あたりの競争的資金獲得数
- ② 教育満足度 (Engagement)
  - グローバル人材育成の重視
  - 入学後の能力伸長
- ③ 教育成果 (Outcomes)
  - 企業人事の評判調査
  - 研究者の評判調査
- ④ 国際性 (Environment)
  - 外国人学生比率
  - 外国人教員比率